

2019年度 第1回7月名大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

①「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。

② 下線の付け忘れは1点減点。

③ 指定用語不使用は1点減点。

④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。

③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント

2. □□□□× 事実誤認あり

3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

1) _____部分は必須キーワードであり，この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。

2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。

3) 「②（①の説明として）」は，加点ポイント①を正解していなくても，加点ポイント②に該当すれば加点する。

問題I (50点)

問1(1) 各2点

- a : 60 b : 西経 75 (「度」「°」付き→△1点, 「西経」無し→×)
c : メルカトル

問1(2)記号 2点 D

問1(2)理由 4点

正距方位図法は中心からの距離が正しいので、南北端の緯線が曲線になるから。

【加点ポイント】

★問1(2)「記号：D」を正解していることを加点の前提とする

- ①南北端の緯線(緯度60°の緯線)が曲線である(直線でない) →3点
②(①の根拠として)中心からの距離が正しい →1点

問2 2点 ウ

問3 2点(完答) ク, コ

問4 記号 2点 ス

問4 理由 6点

雨温図から北半球の地中海性気候なので、南半球のサ・セは除外される。シ・ソも地中海性気候だが、沿岸部では図2ほど気温の年較差は大きくなる。よって、内陸部のスである。

【加点ポイント】

★問4「記号：ス」を正解していることを加点の前提とする

- ①地中海性気候である/Csである →2点
②北半球である/南半球ではない →2点
③気温の年較差が大きい →1点
④(③により)内陸に位置する/沿岸部ではない →1点

問5 名称 2点 砂漠化

問5 説明 6点 【指定語句】 気候的要因 人為的要因 不毛化 (下線不要)

長期的な気候変動や近年の地球温暖化・熱帯林の破壊などによる乾燥化・干ばつなどの気候的要因と、人口増加に伴う過放牧・過耕作・過伐採や過度な灌漑によって土地を酷使し植生を破壊する人為的要因によって、土地が不毛化する現象である。

【加点ポイント】(問5「名称」の正誤は不問)

① (環境問題として) 土地が不毛化する →2点

「指定語句」抜けは、1つにつき-1点

② 気候的要因として

- ・長期的な気候変動
 - ・地球温暖化
 - ・干ばつ／乾燥化／少雨化
- } 1つ1点
2点まで

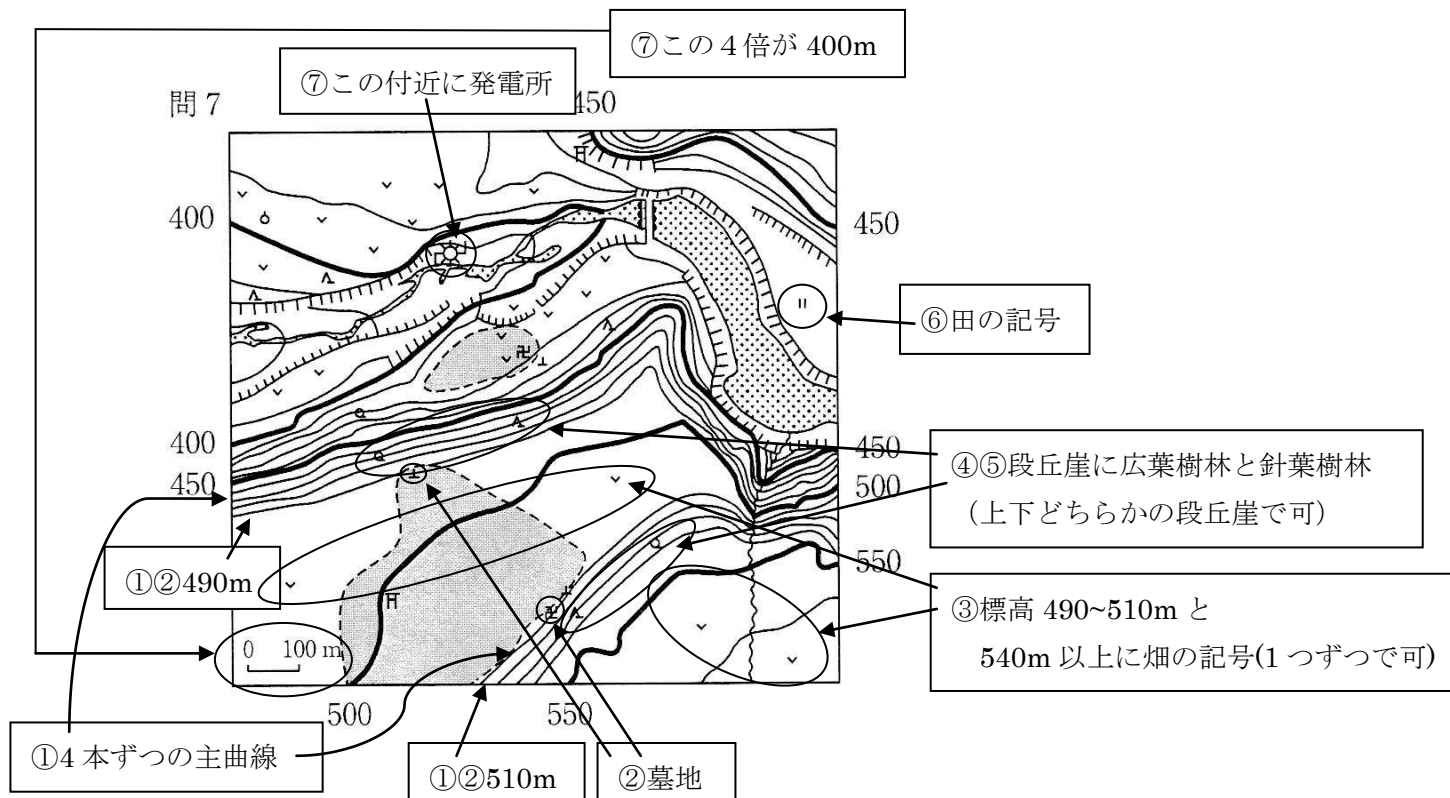
③ 人為的要因として

- ・過放牧
 - ・過耕作／焼畑サイクルの短縮
 - ・過伐採／薪炭材の採取
 - ・過度の灌漑
- } 1つ1点
2点まで

問6 各2点

d : 高 e : 北西 f : 対馬 g : 水蒸気 h : 多く

問7 8点



【加点ポイント】

- ① 主曲線が8本描かれ、2つの段丘崖と1つの段丘面を正しく表している →2点
(標高490m～510mの間が明らかな段丘面(主曲線の間隔が広い)となっている)
- ②490mの主曲線が集落北部の墓地の付近を通り、
510mの主曲線が集落南東部の墓地の付近を通る →1点
- ③ 標高490～510mと標高540m以上それぞれに、畑の記号が描かれている →1点
- ④ 段丘崖に広葉樹林の地図記号 →1点
- ⑤ 段丘崖に針葉樹林の地図記号 →1点
- ⑥ ダム湖の右岸に田の地図記号 →1点
- ⑦ ダムから400m下流の右岸(川の上側)に発電所 →1点



問題Ⅱ (50点)

問1 各2点 A:砂糖 D:茶

問2 各2点 X:ブラジル Y:インド

問3 2点 バイオエタノール/バイオマスエタノール/バイオ燃料
(「バイオマス」は×)

問4 8点

新興国の経済発展による生活水準の向上に伴い食用油脂の需要が増大したことや、洗剤・せっけんなどの工業原料・バイオ燃料への利用が広がったため。

【加点ポイント】

- ① (パーム油の) 需要が増えた →2点
- ② (パーム油の用途として) 食用油脂/マーガリン/菓子/食用原料 →2点
- ③ (パーム油の用途として) 洗剤/せっけん/工業原料/バイオ燃料/発電燃料 →2点
- ④ (①の背景として) 新興国の 経済発展/生活水準の向上/食生活の変化
/パーム油の用途が広がった/パーム油は安価である →2点

問5 8点

国際価格の変動が大きい農作物を適正な価格で購入することで、発展途上国の農民の生活を安定させ、持続性のある農業を営むことが可能となるため。

【加点ポイント】

- ① (目的として) 発展途上国の農民の生活を安定させるため
/発展途上国の人々の経済的自立を支援するため
/発展途上国の農業の持続性を担保するため →3点
- ② (背景として) 農作物の国際価格の変動が大きい
/農作物の価格が不適正に低く抑えられている
/農作物の価格が先進国(買い手)の都合で決められる
/発展途上国の農家は企業や地主から不当な搾取を受けている →3点
- ③ (手段として) 農作物を適正な価格で購入する
/農作物を安定した価格で取引する
/フェアトレードという考え方である →2点

問6 4点

1980年代半ばより市場経済を導入するドイモイを採用し、労働者の生産意欲が増したから。

【加点ポイント】

- ① 市場経済が導入された →2点
- ② (①の政策は) ドイモイという →2点

問7 各2点 E:牛 F:豚 G:羊

問8 4点

熱帯林を伐採して牧場を造成することから、生物多様性の消失や地球温暖化につながる。

【加点ポイント】

- ① (地球環境問題として) 地球温暖化/生物多様性の消失/生態系の破壊 →2点
- ② (①の背景として) 熱帯林伐採/森林破壊/森林減少 →1点
- ③ (②の背景として) 牧場の造成 →1点

問9 8点

ヒンドゥー教徒にとって神聖な動物である牛の肉食は禁忌だが、乳はバターに加工して利用する。最近では流通の進歩などによる白い革命が進み、生乳の消費も増えた。

【加点ポイント】

- ① (牛肉生産量が少ない理由として) ヒンドゥー教では牛の肉食は禁忌である
/ヒンドゥー教徒は牛肉を食べない →3点
- ② (牛乳生産量が多い理由として) 牛乳をバターに加工して利用する
/牛乳は食してもよい →3点
- ③ (近年の背景として) 白い革命が進んだ/牛乳がタンパク源として推奨された
/牛乳の流通システムの整備が進んだ
/牛乳の冷蔵運搬設備が発達した
/牛乳・酪農関連の企業が発展した →2点

問10 2点

イスラム教徒が多く、豚肉を禁忌として食さないから。

【加点ポイント】

- ① イスラム教徒が多い →1点
- ② (①は) 豚肉を食さない/豚の肉食は禁忌である →1点

問題Ⅲ (50点)

問1 各2点

A：ドバイ B：ロンドン C：フランクフルト
D：インチョン（仁川） E：バンコク

問2 5点

空輸に適しているハイテク製品の組立工業が盛んな中国のハブ空港であり、ハイテク製品の輸出と、その部品の輸入が多いため。

【加点ポイント】

- ① ハブ空港である →1点
- ② (中国・ホンコン周辺は) 組立工業が盛んである／部品を輸入して完成品を輸出する
／労働力指向型の工業が盛んである →1点
- ③ (ホンコンは) ハイテク製品(電子機器・IC・半導体関連など)の輸出が多い →1点
- ④ (ホンコンは) 部品の輸入が多い／生鮮食料品の輸入が多い →1点
- ⑤ (③④は) 空輸に適している／航空輸送される →1点

問3 8点

高地上のケニアとエチオピアは低緯度ながら冷涼で、一年中ヨーロッパの初夏に似た気温が続くため、年間通してバラを育てやすい。よって、ドバイ国際空港がヨーロッパ・アジアとアフリカを結ぶハブ空港に成長し、前二者への生鮮品の迅速な輸送が可能になると、輸出向けのバラ栽培が拡大した。

【加点ポイント】(問1の可否は問わない)

- ① (自然環境として) 冷涼である／一年中温暖である
／常春気候である →2点
- ② (①の背景として) 高地に位置する／標高が高い／高原である →1点
- ③ (①の背景として) 低緯度に位置する／赤道に近い →1点
- ④ (①により) 一年中バラを育てやすい →1点
- ⑤ (成長の背景として) A(ドバイ)の空港がハブ空港となった
／A(ドバイ)の空港経由で輸出可能となった →2点
- ⑥ (⑤による輸出先として) ヨーロッパ／オランダ／イギリス／アジア／日本／欧米
→1点

問4 4点

CからDへ飛行するときは偏西風が追い風となり、DからCへ飛行するときは偏西風が向かい風となるため。

【加点ポイント】(問1の可否は問わない)

- ① (要因として) 偏西風/ジェット気流 →2点
 - ② (①が) CからDへの飛行では追い風となる →1点
 - ③ (①が) DからCへの飛行では向かい風となる →1点
- (※C:フランクフルト D:インチョン)

問5 4点 1月2日午前10時 (「1月」は無くても可 「午前」なし→△2点)

問6 9点

Xは、1990年から2015年にかけての値の増加が最も大きく、経済技術開発区の設置後に輸出工業が急成長したシャンハイと判断できる。Yは、1990年の値が表2中で最大で、その後も値が増加していることから、中継貿易港として繁栄が続くシンガポールと判断できる。Zは、2010年から2015年にかけて値が減少しており、シェンチェンなど中国南部の他の貿易港の成長で相対的地位が低下したホンコンと判断できる。

【加点ポイント】

- ① (Xについて) シャンハイである →1点
- ② (★①の正解を前提として) Xは1990年から2015年にかけての値の増加が最も大きい
/ Xはコンテナ取扱量の増加が著しい →1点
- ③ (★①の正解を前提として) Xには経済技術開発区が設置された
/ Xは近年の経済発展が著しい →1点
- ④ (Yについて) シンガポールである →1点
- ⑤ (★④の正解を前提として) Yは1990年の値が表中最大である
/ Yは早い時期からコンテナ取扱量が多い →1点
- ⑥ (★④の正解を前提として) Yは中継貿易港として繁栄が続く
/ Yは古くから中継貿易が発達している →1点
- ⑦ (Zについて) ホンコンである →1点
- ⑧ (★⑦の正解を前提として) Zは2010年から2015年にかけて値が減少している
/ Zは近年取扱量が減少している →1点
- ⑨ (★⑦の正解を前提として) Zの近隣の貿易港(シェンチェン)が発展している
/ 中国の他の貿易港の取扱量が増えた →1点

問7 2点 プサン (釜山)

問8 8点

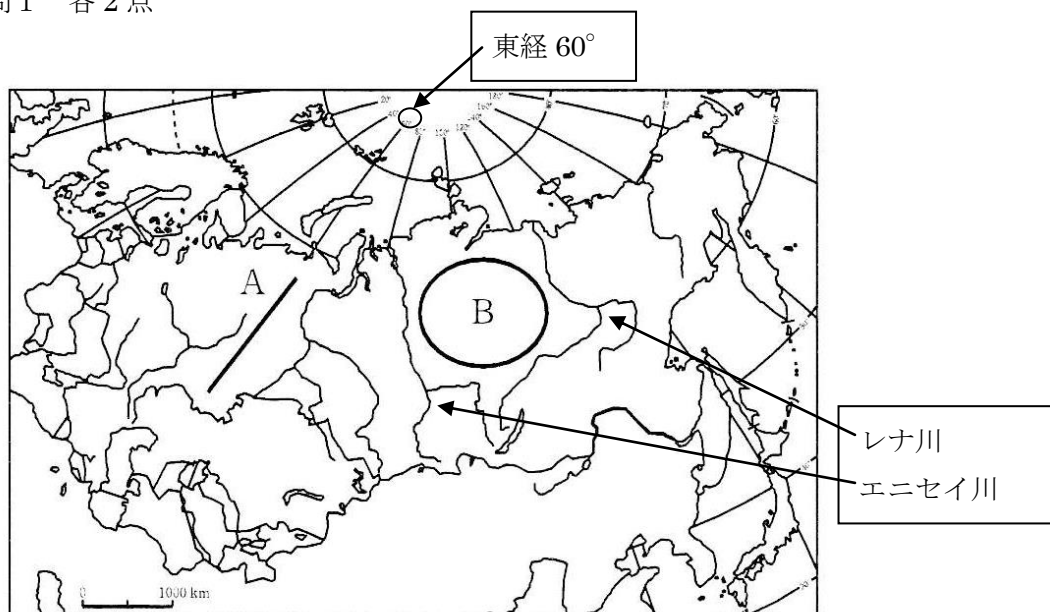
地球温暖化で北極海の海氷が減り、ベーリング海峡と北極海を経由する航路が開発されれば、日本とヨーロッパとの貿易はスエズ運河経由より輸送距離が短縮され、かつ水深が浅く治安の悪いマラッカ海峡も通過せずに済む。また、北アメリカ東部との貿易も、パナマ運河経由より輸送距離が短縮される。

【加点ポイント】

- ① (地球温暖化の影響として) 北極海の海氷が減る (融ける)
／北極海の海氷範囲が縮小する →2点
- ② (①により) ベーリング海峡 経由の航路が開発される (利用できるようになる) →2点
- ③ (②は) スエズ運河 経由に比べ ヨーロッパとの 輸送距離が短い／輸送時間が短い
／スエズ運河 経由は②よりヨーロッパとの輸送距離が長い →1点
- ④ (②は) マラッカ海峡 を通るより 安全である／海賊が少ない／治安がよい
／マラッカ海峡 は治安が悪い →1点
- ⑤ (②は) マラッカ海峡 を通るより 大きなタンカーを使える
／マラッカ海峡 は水深が浅い／マラッカ海峡 は大型船舶が通れない →1点
- ⑥ (②は) パナマ運河 経由に比べ北アメリカ東部との 輸送距離が短い／輸送時間が短い
／パナマ運河 経由は②より北アメリカ東部との輸送距離が長い →1点

問題IV (50点)

問1 各2点



- A (ウラル山脈) : 東経 60° 線に沿った位置に実線で描画し「A」と付す →2点
B (中央シベリア高原) : レナ川とエニセイ川の間の実線で囲って「B」と付す →2点

問2 各2点×6

- ア 都市 : c 気候区 : E T
イ 都市 : d 気候区 : D w
ウ 都市 : b 気候区 : B S

問3(1) 4点

小麦栽培に適した半乾燥気候の下で、肥沃な黒色土であるチェルノーゼムが分布するから。

【加点ポイント】

- ① (気候の特徴として) 半乾燥 / 適度の降雨がある / ステップから湿潤への漸移域 →2点
② (土壌の特徴として) 肥沃 / 腐植の多い + 黒色土 / チェルノーゼム →2点

↙ 両方解答で2点 ↘

問3(2) 6点

アムダリア川の水を利用して栽培しているため、アラル海に流入する水量が減少し、アラル海が縮小し塩害などが起きている。

【加点ポイント】

- ① (環境問題として) 塩害/湖水の塩分の飛散 →2点
- ② (①の背景として) アムダリア川からの取水/アラル海への流入河川からの取水 →2点
- ③ (②の結果として) アラル海の縮小 →2点

<別解>

乾燥する気候下での過剰な灌漑により、土壌の塩性化が進み農地が荒廃している。

【加点ポイント】

- ① (環境問題として) 土壌の塩性化/塩害/塩類土化 →2点
- ② (①の背景として) 過剰な灌漑/灌漑地の排水不備 →3点
- ③ (①の背景として) 乾燥地域である →1点

問3(3) 2点 カラガンダ炭田

問3(4) 2点 トルコ

問3(5) 4点

国内にクリヴォイログ鉄山とドネツ炭田があり、製鉄原料に恵まれているから。

【加点ポイント】

- ① クリヴォイログ鉄山がある →2点
(※「鉄鉱石が採れる/鉄山がある」のみ →1点)
- ② ドネツ炭田がある →2点
(※「石炭が採れる/炭田がある」のみ →1点)

問3(6) 各2点 ①:ケ ④:サ ⑥:キ

問4 10点

両国とも自動車・機械類を中心に輸出額が急増している。これは、両国が2004年にEUに加盟したことにより、西ヨーロッパやアメリカ合衆国、日本の企業が安価な労働力を求めて生産拠点を置いたためである。

【加点ポイント】

- ① (両国の輸出の状況として) 輸出額が(大きく)増加している →2点
- ② (輸出の内容として) 自動車/機械類が多い →2点
- ③ (①②の背景として) 両国がEUに加盟した →2点
- ④ (③の結果として) 他国の生産拠点が移転してきた/外国企業が進出した
他国の自動車工場が立地した →2点
- ⑤ (④の背景として) 両国の安価な労働力/賃金が安い →2点
(※「EU内は非関税である」のみ →1点)